

2026年卒

3月1日時点の就職活動調査 〈速報〉

キャリタス就活 学生モニター2026 調査結果 (2025年3月発行)

2026年卒の採用広報が3月1日に解禁された。企業の採用意欲が引き続き旺盛な中、学生たちはどのように活動を進めているのだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3月1日時点の内定^(※)状況

- 内定率は47.7%。前年同期実績(43.2%)を4.5ポイント上回る
- 内定企業の7割(71.9%)が「インターンシップ等^(※)参加企業」

2. エントリー状況

- エントリー社数の平均は19.5社。前年同期(21.2社)より1.7社減

3. 就職活動解禁を迎えた心境

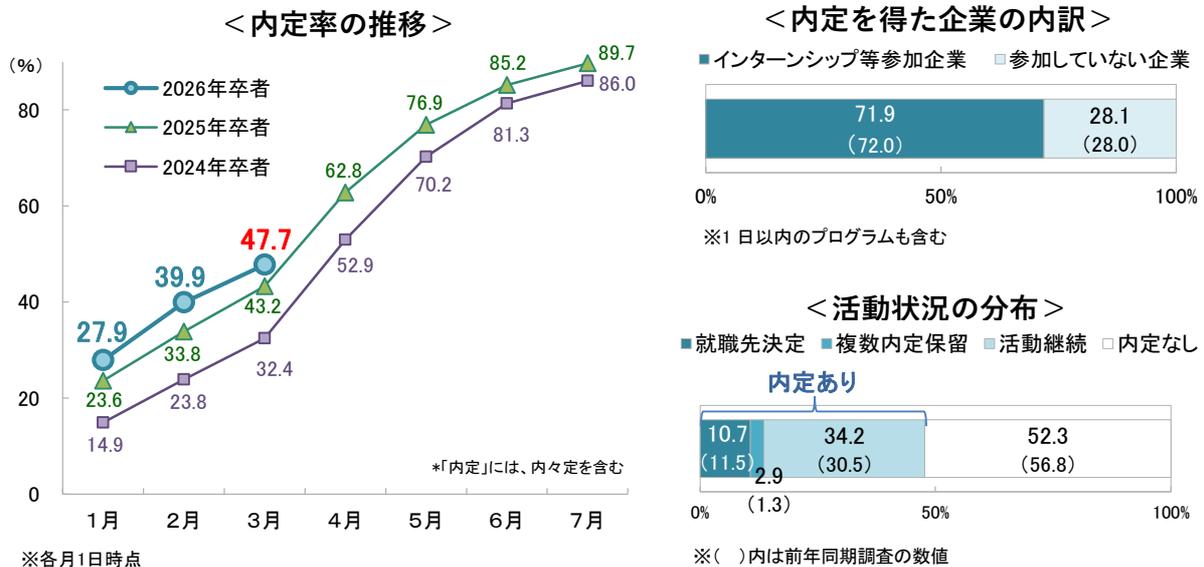
- 解禁は「いまさらという感じ」が過半数(54.1%)。「本格的に始まった」は4割(41.0%)

※「内定」には、内々定を含む ※1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

1. 3月1日時点の内定状況

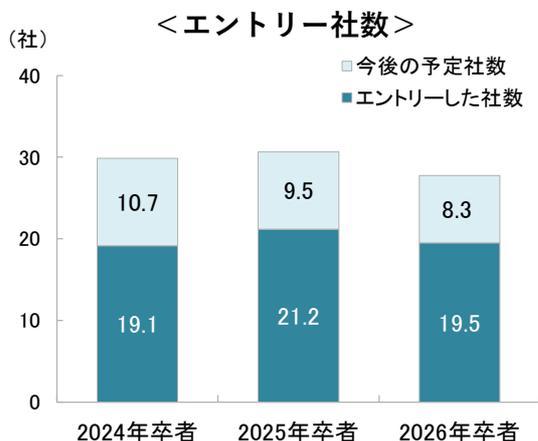
3月1日以内定を得ている学生は全体の47.7%。前回調査(39.9%、2月調査)からの1カ月間に7.8ポイント上昇し、就活解禁のタイミングで就活モニターの半数近くが内定を手に行っていることがわかった。前年同期実績(43.2%)を4.5ポイント上回っており、現在の日程ルールが10年目を迎える中で、早期化が一層進んでいる様子が見て取れる。内定企業の7割(71.9%)がインターンシップ等のプログラムに参加していた企業。

内定率は非常に高水準であるが、内定取得学生の多くは内定を保持しながら就職活動を継続している。就活終了者(就職先決定)はモニター全体の10.7%。多くの学生にとって本番はこれからだ。

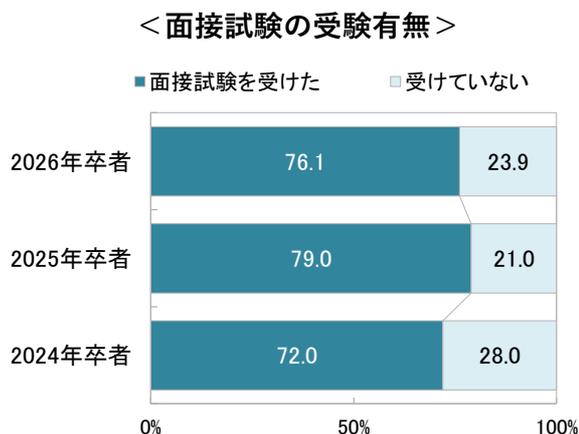


2. エントリー状況

一人あたりのエントリー社数の平均は19.5社で、前年同期実績(21.2社)を1.7社下回った。今後のエントリー予定社数も前年調査より少ない(9.5社→8.3社)。調査時点ですでに本選考の面接試験を受けた経験を持つ学生が今年も7割を超えており(76.1%)、早い時期に接点を持った企業の選考が進んでいることで、新しい企業に関心が向きづらくなっているのだろう。



※各年3月調査

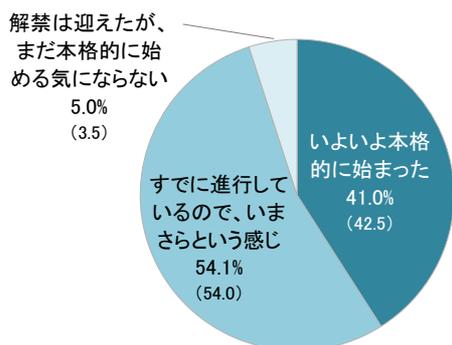


※各年3月調査

3. 就職活動解禁を迎えた心境

3月1日の「解禁日」を迎えた心境を尋ねた。自分の気持ちに近いものを選んでもらったところ、「いよいよ本格的に始まった」と回答した人の割合は前年よりも減少(42.5→41.0%)。内定率が半数に迫る状況下で、学生にとって解禁日の存在感が薄らいでいる様子がうかがえる。「いまさらという感じ」が今年も半数を超えた(54.1%)。

<就職活動解禁を迎えた気持ち>



※()内は前年同期調査の数値

■学生の声

- 就活解禁は3月とは言われているが、2月までには内定を獲得している状況が一般的になっている。<理系男子>
- 早期化のせいで、遅く就活を始めたわけでもないのに、もう取り残された気分。<文系女子>
- 道行く社会人みんな輝いて見えるぐらい面接が怖い。<文系男子>
- 早期化とともに長期化しているため、就活解禁の時期で既に心が疲れている。<理系女子>
- 早く終わらせて学業に専念したい。<理系男子>
- 内定はもらっているが、まだまだ満足はしていない。就活解禁した今、より全力で楽しんで取り組もうと思う。<文系女子>

調査概要

- 調査対象：2026年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
- 回答者数：1,105人(文系男子225人、文系女子488人、理系男子234人、理系女子158人)
- 調査方法：インターネット調査法
- 調査期間：2025年3月1日～6日
- サンプリング：キャリアス就活学生モニター2026
- 調査実施：株式会社キャリアス/キャリアスリサーチ